

## 序 文

北星学園大学経済学部（経済学科）は、昭和37年に設置された文学部（英文学科、社会福祉学科）に続いて昭和40年に設置され、爾来、20年の星霜を経て、昭和60年学部設立20周年を迎え、9月から10月にかけて記念事業が行われたのであるが、この「北星学園大学経済学部設立20周年記念論集」はその記念事業の一環として出版されたものである。

経済学部開設当初、北大名誉教授渡辺侃、松田武雄、高倉新一郎、早稲田大学久保田明光、酒枝義旗、青山学院大学榊原巖の諸先生といった錚錚たるスタッフを擁し、諸先生を中核として学部の教育・研究体制を確立したわけである。由来、教育面においては、地域社会に貢献できる有為な人材を育成するために、学科課程の改編、学生定員増、専攻科の設置、社会人入学制度の導入等を実施していたところである。さらに、現在、コンピュータリゼーションの新たな局面（第二次情報革命）に対応して、地域社会のニーズにこたえるべく、情報処理に関する知識と技能を兼備した人材を育成する為に、昭和62年4月設置を目途として、経済学部内に経営情報学科を設置する準備をすすめているところである。

研究面においては、共同研究、北星学園大学経済学会を通して学部構成員が切磋琢磨すると同時に、個々の研究においても、開部当初の錚錚たる諸先生の御研究に恥ない業績をあ

げるために研鑽し続けているところである。

われわれは、社会の進歩に貢献するために日夜研究に励み、その成果を社会にとうていかなければならないと考えている。本論集もささやかではあるが、そのような目的に沿って刊行されたものである。

昭和61年3月25日

北星学園大学経済学部長 小野寺 万寿郎